

令和4（2022）年度  
事業報告書

学校法人 二階堂学園

## 目 次

I. 令和4(2022)年度事業報告	1
日本女子体育大学	5
日本女子体育大学附属二階堂高等学校	8
我孫子二階堂高等学校	10
日本女子体育大学附属みどり幼稚園	12
二階堂幼稚園	14
日本女子体育大学附属保育園	16
II. 財務の概要	18

## I.令和4(2022)年度事業報告

令和4(2022)年度は、コロナ禍が3年目を迎えた中で、各学校・園とも感染防止に配慮しつつ、少しずつコロナ禍前の形に戻して諸活動を展開した。創立百周年記念事業では、これまでの(仮称)創立百周年記念体育館の建設や記念誌の編纂、記念募金の募集に加えて、記念フォーラムや記念式典・祝賀会、演技発表の実施に向けた準備を開始した。

(仮称)創立百周年記念体育館は、建物全体の鉄骨組立工事が完了し、内外装の仕上げ工事や設備工事に着手した。その他の施設設備等の整備事業としては、烏山キャンパスの光ケーブル更新工事、附属高校の職員室等の空調更新工事、我孫子高校の本館高架水槽改修工事、二階堂幼稚園の園児用トイレ配管補修工事等を実施した。

以下は、各設置校・園の事業報告の概要である(各校・園の事業報告詳細は5ページ以降参照)。

### <日本女子体育大学>

改組・新学科開設から3年目と進み、旧学科・専攻と併存する最後の1年間となった。令和5年度には完成年度を迎えるが、その後の改革に向けてカリキュラムの見直しや教員人事計画の検討を始めている。また、将来構想検討委員会を立ち上げ、10年後の本学を構想するロジックモデルの策定を進めている。さらに、内部質保証体制の整備にも着手し、令和6年度の外部認証評価受審に向けて準備を始めている。教育活動では、コロナ禍への対策を講じつつほぼ全ての授業を対面形式に戻し、部活動や各種大学事業もできるだけ以前の状況に戻すよう努めている。学生募集については、昨年度の結果を踏まえ早急に改革を行ったが、ダンス学科以外の3学科では入学定員充足に至らなかった。

### <日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

教育目標の具現化に向け、PDCAサイクルを意識し組織的に取り組んだ。特に、コロナ禍でも感染防止を徹底し、ICT器機を活用した対面授業や、生徒主体の魅力ある特別活動を実施するなど充実した教育活動を展開できた。また、2年目となるN-SALCは運営委員会を中心に、語学に特化した自主学习を推進しこれまでにない進学実績につながった。また、1・2年生は5コース制、3年生は3コース制における特色ある学びは、個の能力を伸ばさせ卒業後の幅広い進路選択にも繋げられた。生徒募集に関しては、全ての教員が危機感を持ち広報活動等に取り組んだが、受験者数が増えずダンスコース以外は定員充足を果たせなかった。

### <我孫子二階堂高等学校>

新カリキュラムへの移行初年度としてマスター講座を1年次生に開設し、個別最適化の授業として活用ができた。大きな学校行事では修学旅行を含め、コロナ感染予防対策を十分考慮し、以前とは内容を変え実施することができた。進路結果については、初めて大学・短大への入学者が5割を超え、また進学コースでは上位校に一般入試で合格を果たすなど、受験対策が成果を上げている。生徒募集及び広報活動は夏の体験入学のイベントでは過去最高の来校者を記録するなど、公立学校との差別化を図ることができ、結果として受験生は昨年比で約1割の減少であったが、入学生は昨年比で2割の増加となった。

### <日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

園児たちが自ら考え主体的に行動できるよう、保育計画を立て保育活動を実施した。結果、園児の発言力や探求心が増し、伸び伸び明るく園生活を送る姿が園内に溢れていた。附属高校のN-SALCを利用し、ネイティブ講師との英語遊びを行い、園児たちの英語体験の意欲が増したように感じた。預かり保育では、保護者が安心して預けられる環境として、教員の配置や部屋の確保、楽しい保育内容を検討した。保護者より、預かり保育後や課外教室後の帰宅時に、季節によっては駐輪場等が暗いとの指摘があったため、改善が必要と考える。日本女子体育大学の附属園として、コロナ禍ではあったが、大学生の授業に参加したり、実習生を受け入れたりとできたことは良かった。園児獲得に向け、幼稚園のPR不足を感じたため、子育て支援事業を見直すとともに、入園説明会やホームページの内容、広報活動等の早期改善が必要と考えている。

#### <二階堂幼稚園>

「知育・体育・徳育・食育」の4つの柱に重点を置き、バランスの良い保育を目指して各項目の能力が伸びるよう実践してきた。知育では、1人1台タブレット端末を操作し、プログラミングに興味を持って取り組めた。運動では、年2回行う運動能力測定の結果を踏まえ、自由遊び中にも走る・投げる・跳ぶ等の運動要素を運動遊びに取り入れ、体力の向上に繋がった。徳育では、異年齢との活動や日々の保育を通し、他者との共感や思いやりのある行動ができるようになり、豊かな心の育ちがみられた。食育では、野菜栽培や視聴覚教材を通し食の大切さを伝え、感謝の気持ちを培い、好き嫌いを少なくするよう努めた。募集では、未就園児教室「にこにこクラブ」を3クラスから4クラスに増やすとともに、SNSを活用して幼稚園を知ってもらうことに取り組み、園児獲得に繋がった。

#### <日本女子体育大学附属保育園>

園児一人ひとりが心豊かに育つよう、集団生活の中で年齢に合った活動を取り入れ、保護者には子どもの成長を知ってもらうために具体的な内容を示して、計画的な取り組みを行った。コロナ禍ではあったが様々な活動や行事を行うことができ、大学総合体育館アリーナで実施した運動会では保護者、祖父母を招待し大成功の結果となった。公共交通機関を使用する遠足や里芋掘りなどを経験し、地域との関わりを持つことができた。日本女子体育大学子ども運動学科の学生や附属二階堂高等学校の生徒、東京都職場体験事業希望の高校生を受け入れて、附属保育園の保育について学ぶ機会を設け、次世代を担う保育士の養成に貢献した。

以 上

各校・園の事業報告詳細（5ページ以降）の自己評価については、達成度を以下の基準で判定したものである。

- [A] 事業計画作成時に想定した目標を達成できた
- [B] 概ね目標を達成できたが一部に不十分な事項を残している
- [C] あまり成果を挙げる事ができなかった又は何らかの支障があり実施できなかった

## 1. 設置する学校の名称及び入学定員と学生・生徒・園児数

学 校 名 ( 所 在 地 )	学部・学科等名	開設 年度	入学定員	収容定員	R4.5.1 現員
日本女子体育大学 〒157-8565 東京都世田谷区北烏山 8-19-1 学長 深代 千之	大学院 スポーツ科学研究科修士課程	年度 H5	人 15	人 30	人 38
	体育学部	S40	-	320	334
	運動科学科(R2 募集停止)	H11	-	220	223
	スポーツ健康学科(R2 募集停止)	H11	-	660	598
	スポーツ科学科	R2	220	300	313
	ダンス学科	R2	100	540	526
	健康スポーツ学科	R2	180	120	118
	子ども運動学科	R2	40		
	計		555	2,190	2,150
日本女子体育大学附属二階堂高等学校 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 校長 工藤 公彦	全日制課程普通科	S23	200※	600	244
我孫子二階堂高等学校 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 校長 中島 太	全日制課程普通科	S42	260※	780	393
日本女子体育大学附属みどり幼稚園 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-17-22 園長 大平 春美		S22	88	280	269
二階堂幼稚園 〒270-1163 千葉県我孫子市久寺家 479-1 園長 志田 一美		S51	90	270	206
日本女子体育大学附属保育園 〒156-0055 東京都世田谷区船橋 7-20-16 園長 太田 よし美		R2		93	87

※日本女子体育大学附属二階堂高等学校と我孫子二階堂高等学校の入学定員は、学則上の人数。

## 2. 令和4年度 応募・合格・入学者数

学 校 名	学部・学科等	入学定員	応募者数	合格者数	入学者数	備 考
日本女子体育大学	スポーツ科学研究科	15	29	23	23	
	大学院小計	15	29	23	23	
	スポーツ科学科	220	328	309	202	
	ダンス学科	100	166	118	101	
	健康スポーツ学科	180	335	314	182	
	子ども運動学科	40	61	55	43	
	学部小計	540	890	796	528	
	大学合計	555	919	819	551	
日本女子体育大学附属二階堂高等学校		160	139	133	70	
我孫子二階堂高等学校		200	1,239	1,179	124	
日本女子体育大学附属みどり幼稚園		88	106		93	
二階堂幼稚園		90	67		65	
日本女子体育大学附属保育園		29			23	

### 3. 役員・評議員・教職員（R4.5.1 現在）

#### 【役員】

理事	理事長	石崎 朔子			
	常務理事	大西 史記	深代 千之（学長）		
	理事	工藤 公彦	小海 隆樹	桂 眞弓	
		永井 多恵子	浅田 眞弓	永島 惇正	
		宮嶋 泰子			
監事	常勤監事	伊勢呂 裕史			
	監事	西住 崇			

#### <令和4年度役員賠償責任保険契約の状況>

(1) 団体契約者	日本私立大学協会
(2) 被保険者	記名法人…学校法人 二階堂学園 個人被保険者…理事、監事、評議員
(3) 補償内容	
① 役員（個人被保険者）に関する補償	法律上の損害賠償金、争訟費用等
② 記名法人に関する補償	法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
(4) 支払い対象とならない主な場合	法律違反に起因する対象事由等
(5) 保険期間中総支払限度額	5億円

#### 【評議員】

小海 隆樹	桂 眞弓	浅田 眞弓	森田 陽子
橘田 隆志	磯部 美知子	小池 匠	志田 一美
太田 よし美	星谷 速人	柳澤 康彦	寺山 喜久
廣田 博子	高橋 和子	加藤 明	鈴木 貴美子
梅本 千枝子	工藤 紫乃	市川 真知子	桐川 敦子
工藤 公彦	桑島 俊彦	宍戸 良子	鯛谷 和代
中島 太	福岡 孝純		

#### 【教職員（専任）】

大学教員	86名
高等学校教員	56名
幼稚園教員	29名
保育園保育士	10名
職員	71名

### 4. 管理運営の概要（理事会等の開催状況）

会議名	令和4年度開催
理事会	5回
評議員会	5回
常務理事会	16回
学園連絡会議	11回（うち書面開催6回）

<日本女子体育大学>

区 分	事 項	結 果	自己評価
教育	4 学科開設後の AC 対応 (教員人事, カリキュラム整備) 及び完成年度以後の将来構想の検討	前年度末での予定外の退職教員はなく、大学設置基準上の必要人数は担保しているが、子ども運動学科は設置計画上の教員配置から不足しているため、他学科から 2 名の教員を令和 5 年度から配置換えすることを計画している。また、完成年度以後の教員配置・カリキュラム改革等を検討するため、学長直属の役職者会議を開催し作業を進めている。	B
	大学院改革の推進	昨年度に引き続き、学部生向けの入試説明を対面及びオンラインの併用で実施し、多くの進学者を集めることができ、推薦入試及び一般入試 I 期までで既に定員を確保した。	A
	学長ガバナンスに伴う組織運営の改革	学長のリーダーシップの下、IR 推進委員会を中心に私立大学等経常費補助金の獲得向上のために各種の改善策を推進している。また、将来構想検討委員会を中心に 10 年後の本学を構想するロジックモデルの策定を進めている。さらに、来年度に向けては、内部質保証体制の整備に関する諸規程の制定等を進めている。	A
	コロナ禍における学生の学修の担保	前期当初から講義科目、演習科目、実技・実習科目とも全て対面方式を基本とし、大教室で多人数のため感染の懸念があり且つ学修に支障を来さない場合はオンデマンド方式による授業実施も可能とした。また学期末の定期試験もコロナ禍以前の方式により多くの科目が集合一括により試験を実施した。一方で、教育実習、保育・施設実習において一部の実習先では実施期間の延期・変更等が発生したが、調整対応できている。	A
研究活動	教員の研究推進	科学研究費チャレンジ支援制度 (挑戦研究費) を募集したが、申請は無かった。	C
	FD 活動の充実	学部全体での FD 研修を、10 月教授会終了後、各研究室からのオンライン・リアルタイム方式による小グループ討議・全体討議などの新しい方式により実施した。	A
	研究上の不正防止体制	不正防止計画推進委員会による年間 4 回の啓発活動と年間 1 回の研究倫理教育研修を行い、新規程に基づく科研費の執行に関する内部監査を実施した。	A
募集及び広報活動	確実な入学定員を目指す入試制度の改革	全ての入試区分において Web 出願システムを導入し志願者の出願手続の簡便化を図り、かつ各種書類作成経費を節減した。 総合型選抜では I 期の募集人数を増やし、ダンス学科以外の 3 学科では 2 段階選抜を廃止し出願期間を延長した他、スポーツ科学科では小論文を廃止、出願基準の見直し等を行った。学校推薦型選抜では、スポーツ科学科の一般推薦で実技試験を廃止し、スポーツ推薦の基準見直し、子ども運動学科の配点見直しなどを行った。その他、一般選抜等は昨年度の方策を継続している。 最終的な入学者数は、ダンス学科以外はいずれも入学定員を充足できなかった。一方で大学院は昨年度に続き入学定員を超える人数を確保できた。	B
	活発な学生募集イベントの展開	オープンキャンパスを年間 7 回計画し、12 月までの 6 回は全て来場型対面方式にて実施した。他に、ちょこキャン (縮小型見学会) を年間 6 回実施し、健美祭と同時開催としてミニオープンキャンパスを、また、授業見学会を 3 回開催した。	A

	学生募集に繋がる 大学主催事業の実施	8月19～20日にダンス・ワーク・セミナーを来場対面型で開催した。また、1月26日に舞踊学専攻「卒業公演」を2年ぶりに有観客で開催した。	A
社会貢献・地域連携	大学主催事業の展開	① 保護者面談会：来校対面形式で開催できず代替にオンライン動画視聴を4月28日～5月18日に実施した。 ② ダンスコンクール：来場審査ではなく映像審査により行い、受賞作品を12月13日～31日参加校限定でWeb公開した。 ③ 世田谷区と健康スポーツ学科の連携事業「健康づくりモデル事業」を9月20日・10月12日・11月22日に実施した。 ④ 人見絹枝杯陸上競技大会：3月25日に世田谷区立総合運動場にて開催した。	A
	地域交流事業	地域交流講座の「春期」を5月下旬～7月中旬に8講座、「秋期」を9月下旬～1月下旬に7講座、いずれも来校対面形式で開催した。	A
グローバル化	SDGs 関連事業の推進	学内設置冷水器の浄水器を定期点検し、マイボトル使用を推奨しペットボトルゴミ削減を図っている。また、SDGsに関する本学の取り組みをHPに公表した。	A
	烏山キャンパス光ケーブル更新	令和5年度に計画される総合情報システム更新に備えて、夏季休業期間中に実施したが、建設に関連する理由で一部保留され、1月中旬に実施した。	A
教育研究環境の整備	学内施設の適正な維持・管理及び整備	管財課と連携して、教室や学生寮の空調設備を改修し、照明LED化は東館教室や大学院自習室、本館事務室などの改修を実施し、さらに東館外壁外灯の設置、本館横の屋外掲示板を廃止し外灯を設置、本館正面の外灯改修を行った。また、日本カルミック株式会社の協賛により学内トイレを快適空間に改善した。	A
その他	創立100周年記念施設建設事業への協力	施設管理課が管財課と協同で(仮称)創立百周年記念体育館の建設推進に協力し、併せて道路計画に関連する施設(基礎体力研究所等)の移設計画を検討している。また、演技発表会及び記念シンポジウムの企画を立案した。	A
	外部資金獲得方策の検討・推進	企業等からの寄付金等外部資金獲得の方策を積極的に進めるための体制づくりとして、企画課を中心にネーミングライツ事業制度の立案を進めている。	B

〔特記事項〕



○舞踊学専攻「卒業公演」





講義



履厚測定



歩行速度測定



認知機能チェック

○世田谷区連携・健康づくりモデル事業

▼申込期間：4/18(月)～5/13(金)			
<p><b>1</b> ぶくぶくスイミング教室</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>2</b> ウォーキングからジョギングへ</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>5</b> 健康呼吸法</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>6</b> ボールを使ったエクササイズ!</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>
<p><b>3</b> のびのび・さわやか健康体操</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>4</b> 大人のためのクラシックバレエ</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>7</b> ピラティス</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>8</b> チャアリーディング(読書クラス)</p> <p>申込 4/18(月)～5/13(金)</p> <p>5/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p>

▼申込期間：1～4の講座 8/5(金)～9/2(金)		▼申込期間：5～6の講座 8/8(月)～9/2(金)	
<p><b>1</b> のびのび・さわやか健康体操</p> <p>申込 8/5(金)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>2</b> 特殊エクササイズ!</p> <p>申込 8/5(金)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>5</b> ぶくぶくスイミング教室</p> <p>申込 8/8(月)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>6</b> 健康呼吸法</p> <p>申込 8/8(月)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>
<p><b>3</b> ピラティス</p> <p>申込 8/5(金)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>4</b> ヨガforピクサー</p> <p>申込 8/5(金)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>7</b> 大人のバレエクラス</p> <p>申込 8/8(月)～9/2(金)</p> <p>8/22 8:30-9:15 23-30 777-14</p> <p>9/12 8:30-9:15 23-30 777-14</p>	<p><b>8</b> 地域交流講座</p>

○地域交流講座（春期）

○地域交流講座（秋期）



OSDGs 取り組み公表



トイレ入口看板



企業広告ポスター



フレグランス紹介ポスター



ジェルユーカリ使用方法POP



サニツコ

○学内トイレの環境改善

<日本女子体育大学附属二階堂高等学校>

区分	事項	結果	自己評価
教育プログラム	カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 各コースの特色ある学びの深化に取り組んだ。</li> <li>② SDGsについて考えさせ、課題発見・解決力を育むための総合的な探究の時間を実施し、成果をまとめ発表させた。</li> <li>③ 習熟度別の授業やカリキュラムの弾力的な運用に努めた。</li> </ul>	A
	全コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実学重視の特化した深い学びは、生徒の専門性を伸ばさせ、個々の進路選択に影響を及ぼした。また、生徒の主体性を尊重し、コロナ禍に配慮しながらも、対面による学校行事やコースごとの活動は成就感に繋がられた。</li> <li>② C棟のICT機器の環境整備が進み、iPadや電子黒板を活用した授業改善に取り組み、成果と課題について検証した。</li> </ul>	

	その他	<p>① 教員の負担軽減を目指し校務支援システム「BLEND」を導入し、教員の働き方改革に取り組んだ。また、保護者との情報の共有が図られ問題行動の防止にもなった。</p> <p>② 「N-SALC」を日常的に活用し機能させた。英語検定の結果は2級4名・準2級14名が取得した。イベントを企画し、グローバル社会に適応する資質や能力を定着させるための学びは、上智大学に2名が合格するに至った。</p> <p>③ 全教員に「自己申告書」を作成させることで、教科指導・生徒指導・校務分掌における職務目標と手立てを明確にし、その進捗状況や成果と課題を年3回の面接で共有した。</p> <p>④ 特別講座としての国語、数学、英語のリメディアル講座を計画的に実施した。また、英語検定の取得に向けた対策講座や漢字検定講座を開講し、主体的な学びの一助を担った。</p> <p>⑤ 部活動は強化部を中心に成果を上げ、様々なイベントにも参加し学校の知名度向上に貢献した。</p>	
福利厚生	安全指導 (事故防止対策)	避難訓練や防災訓練による実体験をとおり、自然災害時の危機意識を高め、身の安全を守る適切な判断と行動を学ばせた。また、北沢警察署による生活安全講習会は、全校生徒を対象に実施し、自転車安全講習会は該当生徒に受講させ安全に対する意識を向上させ事故防止に繋がった。	A
	退学者防止	退学理由は人間関係や不登校によることが多い。そのために、保護者の協力がなければ改善しない事例が多い。特に、不登校は初期対応が重要であり、マニュアルどおりにはいかないケースが多い。今後も退学者防止委員会を機能させ退学者防止に努める。いじめ発生件数は1件で解消している。	B
研究活動	校内研修	<p>① 神田外語大学との高大連携事業であるラーニングアドバイザー研修を2日間実施した。生徒との対話による自律学習の促進と、学習アドバイジングの基礎的な知識やスキルを習得することができた。</p> <p>② 教科横断型授業（リベラルアーツ教育）を2回実施し、社会の課題に対応する総合力の育成に努めた。</p>	A
入学募集	広報活動	ホームページやSNS、広告媒体を積極的に活用した情報発信や、中学校・塾訪問による信頼関係の醸成や連携により、接触者数がコロナ禍前まで回復した。また、ダンスコースにおける高大連携事業の強化は広報活動を展開する上で有効に機能し、コースの募集人員をより上回る成果を上げた。厳しい学校経営環境を打開するため、市場調査や中学生のニーズ・動向を分析し、競合校とのポジションの違いを明確に打ち出すとともに、引き続き来訪型広報を中心とした本校の認知度向上と効果的な訪問活動の実践を図り、三桁の入学者を確保する。	C
その他	高大連携事業	<p>① 日本女子体育大学との高大連携事業「ニチジョを体験しよう 2022」を大学側の協力で、1・2年生のスポーツ・ダンスコースの生徒が受講し貴重な体験となった。さらに、大学別進路ガイダンスやオープンキャンパスへの参加を促し、日本女子体育大学への入学者を安定的に確保する。</p> <p>② 国士舘大学との教育交流の一環としてのデリバリ授業を、各学年とコースにおいて年4回実施した。</p> <p>③ 神田外語大学とは、ネイティブ講師の派遣やN-SALCの運営面での連携を充実させ、生徒は浜風祭に参加した。</p>	A
	教育活動支援	「保護者と教師の会」から関東・全国大会出場の垂れ幕の寄贈があり、通用門付近に掲示している。	

[特記事項]



○「ニチジョを体験しよう 2022」 ジャズダンス



○「ニチジョを体験しよう 2022」 身体と心の発達



○ダンス部 NHK賞受賞



○体育祭 クラス応援 (大学総合体育館アリーナ)



○修学旅行 (2 学年沖縄)



○第 74 回卒業証書授与式

<我孫子二階堂高等学校>

区分	結果	自己評価
教育 進路	新教育課程とリンクした 3 つのスクールポリシーを検討し、完成した。授業形態も電子黒板や Microsoft クラウドサービスなどの ICT を活用している。特にオンライン教材である「スタディーサプリ」を生徒負担で法人契約をして活用し、授業等に役立てており、そのための教員向け研修会を開いた。生徒の進路については本校教員と外部のさまざまな分野からの指導者との連携で実力を伸ばし、きめ細やかな指導を行った結果、全体で進学が 9 割、また、大学・短大進学率が 5 割を超える結果となった。本年度から委員会を設置し、立ち上げた土曜日のマスター講座では 64 の講座を 1 年次生が自由に選択し、学力向上や、基礎力固めなど生徒それぞれの目標に沿った授業を受けた。	B
研究活動 地域連携 国際交流	コロナ禍で研究・研修活動が制限される中、教員は千葉県初任者研修や教科別研修に可能な限り参加をした。さらに、校内においては新学習指導要領に添った評価法の研修や、公簿類の事務的な研修が教務部を中心に行われた。事務職員の研修として、学校経理研究会等の経理研修等のオンラインで参加した。地域連携については、我孫子北まちづくり協議会との連携において、AKB プロ	B

	<p>ジェクトとして（写真）我孫子駅北口の美化活動を年3回実施した。国際交流活動については、実施しなかった。</p>	
<p>入試募集及び広報活動</p>	<p>本年度は本校を知ってもらう広報活動がほぼコロナ前の状態に戻り、人数制限等はあるながらも外部の相談会が予定通り開催された。これにより早めに本校を知ってもらう機会が増え、夏休みの体験入学では過去最高の来校者数を記録した。受験者増の期待もあったが、秋の学校説明会では参加者数が思うように伸びず、結果的に受験者数は昨年度を下回ってしまった。第一希望者も昨年度より減っており、「受験者がどこに流れているのか」、「なぜ本校が選ばれなかったのか」ということの原因、理由の分析が必要である。また、今年度の広報戦略の一つとしていたホームページやSNSなどのコミュニケーションツールの充実については、更新頻度を増やすことにより本校の普段の活動の様子を受験生、保護者の方に見ていただき、本校への興味・関心を引くことに力を入れた。本校SNSへのフォロワーも着実に増加しており、今後はさらに更新頻度を増やし、生徒獲得に向けたツールの一つとして活用していく。</p>	B
<p>施設・その他</p>	<p>施設は東側バルコニーの工事、貯水槽等の工事、LED交換（年次交換）は実施したが、トイレ等の工事は実施できなかった。補助金については、私立高等学校等ICT教育設備整備推進事業で、情報実習室等のPC入れ替え等を実施した。</p>	B

〔特記事項〕



○体験入学（Instagram投稿より）



○AKBプロジェクト 我孫子駅前の植栽



○体育祭 女子棒引き競技



○2年次 修学旅行（原爆ドーム前にて）



○1年次 マスター講座



○3年次 校外学習（浅草雷門前にて）

### <日本女子体育大学附属みどり幼稚園>

区分	事項	結果	自己評価
保育	カリキュラム	① 園児が主体的に活動するよう環境を作り、保育の質向上に努めた。その結果、発想力や協調性が養われ、行事ではやり遂げたことを感じ達成感を得ることができた。 ② 古くから伝承されてきた文化に対して、興味や関心を持ち、季節を感じられるような年中行事を取り入れた。 ③ 障害がある子も一緒の環境にいることにより、優しさや、助け合うことの大切さに気づくことができた。	A
	食育	園児に食の大切さを伝え、保育の中で『作る・食べる』の体験を楽しめるように行ってきた。また、年長を中心に野菜を育て、生長の過程を楽しみに観察したり、育てた野菜を他学年に見せたりし、食育活動が広がり充実した。	A
	預かり保育	コロナ対策を取りながらではあったが、行事（夏祭り・クリスマス会・年長お別れ遠足）も行い、縦割り保育の学び・良さもあり、預かり保育における保育の充実が感じられた。また、預かり保育ならではのおやつ作り（白玉ぜんざい）や食育活動（カレー作り等）も自分たちで行い、園児たちが満足し、食の向上にもつながった。	A
	大学連携	コロナ前のように運動能力測定や、大学生の授業に参加し、園児にとっても通常保育ではできないお店屋さんやダイナミックな運動遊びが行え、様々な経験や体験をすることができた。大学の附属園としての役割を果たすことができたこと、また附属園ならではの経験ができたことは、大きな成果と考える。	B
	安全対策	毎月の防災訓練を通し、緊急時における避難の仕方等を教員間・園児と学び判断できるようにした。また年長児を対象に警察の方に協力を得て、交通安全教室、防犯教室に参加し意識を高めることができた。しかし、預かり保育や課外教室後の帰宅時、季節により駐輪場等が暗く、保護者からの安全対策の指摘を受け、何らかの改善が必要と考える。	B
研究活動	実践研究	教員間で共通意識の下、行事や保育を行い、常に保育の向上を目指し、園内研修や職員会議を通してそれぞれのクラス活動を充実させられるよう、自己反省を活かしながら取り組むことができた。今後は積極的に園外の研修に参加し、よりスキルアップに努めたい。	B

募集及び広報活動	広報活動	<p>① 見学会の回数を増やしたり、初めての試みとして、みどり幼稚園の強みである給食の試食会を行うなど、幼稚園を知ってもらう機会を設けた。今後は開催時期を検討し、常に早めに開催し園児獲得につなげたい。</p> <p>② 子育て支援事業（ぼけっと・手あそびうたランド）では、例年より人数が少なく、今後は保護者のニーズに沿った未就園児教室を開設し、保育内容、開催方法を思案し、行う必要があると考える。</p> <p>③ ホームページやブログ、SNS等を活用し、更新を心がけ、園の様子や保育内容等、情報を広く発信した。また幼稚園フェスタに参加するなど、定員確保へとつながるように募集活動を展開した。</p>	B
社会貢献・地域連携	未就園児親子への支援	<p>近隣の子育て世代を対象に育児相談会を開催、オムツトレーニングや食事・子育ての悩み等にアドバイスを行うことができた。また、子育て講習会を開催し、大学教員に講師を依頼して子育てのアドバイスや、子育て談義をしてもらい、参加した保護者から好評を得た。</p>	B
子育て支援	在園児保護者への支援	<p>① 教育課程修了後に、希望者を対象に預かり保育を行い、専任教員を配置し、教育課程内の担任と連携しながら、安心してそれぞれの遊びを楽しめるよう配慮した。また、園内で行っている課外教室への送り迎えをスムーズに行えるよう、教員同士で連携をとり安全に行った。</p> <p>② ICTツールを利用して、円滑に保護者と連絡を取ることができた。また、それを使ってペーパーレスで園だより等を配信することにより、園での活動を保護者に伝えることができた。</p> <p>③ ICTツールを利用して行事等の写真販売も行い、保護者には簡単に写真を購入できると好評を得た。少額ではあるが、園の収益にも繋がった。</p> <p>④ 保護者支援のカルチャー講座は、コロナ感染症の対策を取りながら開催した。</p>	A

〔特記事項〕



○預かり保育 カレーライス作り



○大学の「運動あそび」の授業に参加  
(サーキット遊び)



○年長組 パラバルーン発表会



○おもちつき



○年長組 交通安全教室（羽根木公園にて）



○未就園児教室 クリスマス会

### <二階堂幼稚園>

区分	事項	結果	自己評価
教育（保育）	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の栽培や芋掘りを通して、植物に興味を持ち、育ちの過程や収穫する喜びを味わい、食への関心を高めることができた。</li> <li>食は生きる上での基本であり、健やかに過ごしていけるよう、食育に関連する絵本・紙芝居等を読み聞かせることで、食に関する知識を習得し、バランス良く食べ、好き嫌いを少なくすることができた。</li> </ul>	A
	知育	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で名前やマーク、絵本や手紙等に触れ、またワークを用いた知育指導で文字への関心を高め、読み書きの知育向上に努めた。1年間で行ったワークを集めた知育ブックで保護者に進み方を示すことができた。</li> <li>iPadによる基本操作を知り、プログラミングを通し、問題を解決するためにはどうしたらよいか考えたり判断したりする力を身につけていった。今後も更に思考力を高めていけるよう新しい課題に挑戦していく。</li> </ul>	B
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>キッズアスレティックスの活動である走る・跳ぶ・投げるといった運動の基本動作を保育の中に取り入れ、園児一人ひとりの運動能力を高めた。</li> <li>年2回の運動能力測定を行い、個人や学年の課題を見出し、体育指導や運動遊び等で積極的に体を動かし、身体能力の向上に努めた。</li> </ul>	A



	徳育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活の中で、道徳的な意識を養い、情操豊かな人間性を育んだ。他者への気持ちに寄り添い、思いやりや感謝する心を育むとともに、協調性・公德心等生きる力の基盤を作った。</li> <li>・ 遠足や散歩を通して、自然に親しみ、動植物の命の尊さを学び大切にしようとする心を育んだ。</li> </ul>	A
	リトミック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修での学びを活かして、学年に合ったカリキュラムに沿って指導し、「即時反応力」「注意集中度」「記憶力」「思考力」「判断力」「リズム能力」「コントロール能力」を養った。1年間の成果を発表し、学年毎の成長を、保護者にも感じてもらうことができた。</li> </ul>	A
	その他（施設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置してから30年が経過した総合遊具について、専門業者による点検を実施し、安全を確認した。点検結果を踏まえて修繕を行い、今後も安全に遊べる環境に整えていく。</li> </ul>	B
研究活動	園内外研修  嗜好調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に園外研修に参加し、学びの結果を職員間で発表し合うことで共有し、保育に活かすことができた。</li> <li>・ 園内研修を実施し、一人ひとりの保育技術向上に繋がった。</li> <li>・ 嗜好調査のアンケートを実施し、家庭での食事の実態を知ることで、食育活動や健康についての指導等に活かすことができた。</li> </ul>	A
募集及び広報活動	SNS等の使用  にこにこクラブの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページやSNS等で、保護者に保育の様子や未就園児教室の内容を知らせて興味を持っていただき、未就園児教室や園庭開放、見学会への参加に繋がった。</li> <li>・ 有料未就園児教室「にこにこクラブ」を1クラス増やし、園児獲得に繋がった。</li> <li>・ 次年度の未就園児教室等の募集について、ホームページやチラシ・ポスター等で早めに告知し、更に園児獲得に繋げる。</li> </ul>	B
社会貢献・地域連携	小学校訪問  実習生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校との連携を図り、年長児の小学校訪問が再開され、小学生との交流や校庭での遊びを体験したことで、就学への期待を高めることができた。</li> <li>・ 可能な限り実習生の受け入れを行い、適切な指導や助言を行うことで、保育者育成への貢献と保育者自身の保育技術の向上に繋がった。</li> </ul>	A

〔特記事項〕



○運動能力測定



○リトミック



○食育「野菜栽培」



○英語指導



○知育「プログラミング」



○未就園児教室「にこにこクラブ」



○小学校訪問



○園庭開放

<日本女子体育大学附属保育園>

区分	事項	結果	自己評価
教育（保育）	理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの生きる力の基礎を培うため、一人ひとりの園児の興味関心を大切にし、自ら考え判断して遊び学ぶことができた。</li> <li>・ 園児の姿から評価反省をし、課題を見つけて計画目標を立て保育を進めた。</li> <li>・ 保育士、看護師、栄養士がそれぞれの専門性を発揮し、保護者へ情報提携していきながら一人ひとりの園児の</li> </ul>	A

		<p>健康や心身の発達を支えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの園児が主体的に遊び、体験しながら表現力や創造力を育み、保護者との共有も行った。</li> </ul>	
研究活動	保育士の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインや対面での研修に各職員が意欲的に参加し、それぞれが学んだことを発表し共有した。</li> <li>日本女子体育大学の教員と連携して勉強会を行い、子どもの姿や指導計画について学び日々の保育に活かせるようにした。</li> <li>日本女子体育大学基礎体力研究所による幼児の運動能力測定や「乳幼児期における心臓および骨格筋の発育発達と身体活動量の関係」の研究に関わり、園児の発育や発達の振り返りを行った。</li> </ul>	A
募集・広報活動	ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> <li>世田谷区の内定による入園となるため募集は直接行わないが、ホームページに園だよりを掲載して毎月の保育を紹介し、VR画像による園内見学の導入も行った。</li> <li>見学希望の保護者を受け入れ、園長または主任が園内を案内して保育園で過ごす園児たちの様子を見てもらい、保育内容の説明を行った。</li> </ul>	A
社会貢献 地域連携	地域交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍のため、計画していた地域交流が進んでいない。</li> <li>園見学の保護者から相談を受け、子育ての悩みや不安を共有して、和らげるようにした。</li> </ul>	B
大学・高校との連携	大学の学生や高校の生徒との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属保育園として、保育者を目指す学生や生徒を実習生やボランティアとして受け入れ、支援を行った。園児と触れ合い、子どもの発達について学べるようにした。</li> <li>二階堂高校のN-SALCで、英語に触れる機会をもった。</li> </ul>	A

〔特記事項〕



○運動能力測定



○N-SALC 体験



○運動会（大学総合体育館アリーナ）



○里芋掘り

## II.財務の概要

### (1) 決算の概要

#### ①貸借対照表関係

##### ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の部

(単位：百万円)

科 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
資 産	固定資産	25,633	25,755	25,439	25,496	25,642
	有形固定資産	14,762	14,881	17,795	17,276	18,507
	特定資産	9,830	10,132	7,003	7,874	6,789
	その他の固定資産	1,042	741	641	346	345
	流動資産	2,678	2,983	3,243	3,279	5,460
合計		28,311	28,738	28,683	28,775	31,102

負債の部、純資産の部

科 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
負 債	固定負債	979	989	991	1,008	3,236
	流動負債	1,121	1,189	1,292	1,379	1,458
	計	2,101	2,179	2,283	2,387	4,693
純 資 産	基本金	27,378	28,170	31,194	31,339	31,417
	繰越収支差額	△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008
	計	26,210	26,559	26,400	26,387	26,409
合計		28,311	28,738	28,683	28,775	31,102

##### イ) 財務比率の経年比較

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
運用資産余裕比率	297.1%	280.4%	216.0%	244.3%	198.4%
流動比率	238.8%	250.8%	251.0%	237.7%	374.6%
総負債比率	7.4%	7.6%	8.0%	8.3%	15.1%
前受金保有率	245.2%	230.8%	285.6%	246.6%	509.0%
基本金比率	100.0%	100.1%	100.1%	100.1%	103.3%
積立比率	100.0%	96.1%	75.5%	76.4%	83.7%

\*上記の表の金額は百万円未満を四捨五入しているため合計など数値が一致しない場合があります。  
なお、以下の表についても同様です。

## ②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部

(単位：百万円)

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学生生徒等納付金収入	3,266	3,273	3,270	3,125	3,061
手数料収入	72	70	59	57	49
寄付金収入	12	36	40	29	39
補助金収入	873	1,186	1,062	1,037	1,096
資産売却収入	100	200	300	100	300
付随事業・収益事業収入	212	214	189	195	200
受取利息・配当金収入	106	105	95	104	115
雑収入	157	147	118	97	251
借入金等収入	1	0	1	1	2,500
前受金収入	914	985	1,027	1,139	1,006
その他の収入	2,134	2,425	5,068	1,271	1,768
資金収入調整勘定	△ 1,116	△ 1,248	△ 1,122	△ 1,129	△ 1,425
前年度繰越支払資金	2,324	2,240	2,275	2,933	2,813
収入の部合計	9,055	9,634	12,381	8,958	11,772

支出の部

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費支出	2,546	2,573	2,655	2,475	2,631
教育研究経費支出	981	1,144	1,150	1,070	1,181
管理経費支出	380	493	504	473	490
借入金等利息支出	0	0	0	0	1
借入金等返済支出	2	1	1	1	0
施設関係支出	286	497	3,524	45	1,643
設備関係支出	66	125	69	49	78
資産運用支出	2,533	2,537	1,563	1,996	580
その他の支出	82	78	64	129	127
(予備費)					
資金支出調整勘定	△ 62	△ 89	△ 83	△ 92	△ 78
翌年度繰越支払資金	2,240	2,275	2,933	2,813	5,120
支出の部合計	9,055	9,634	12,381	8,958	11,772

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：百万円)

科 目		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	4,591	4,620	4,691	4,517	4,625
	教育活動資金支出計	3,906	4,207	4,310	4,018	4,302
	差引	684	412	382	499	323
	調整勘定等	△ 87	138	26	133	△ 284
	教育活動資金収支差額	597	550	408	633	39
	施設整備等活動による資金収支	施設整備等活動資金収入計	1,608	2,031	4,261	773
施設整備等活動資金支出計		2,479	2,622	4,692	1,697	2,071
差引		△ 871	△ 590	△ 431	△ 924	△ 602
調整勘定等		0	△ 228	226	9	△ 51
施設整備等活動資金収支差額		△ 871	△ 818	△ 205	△ 916	△ 653
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△ 274	△ 268	203	△ 283	△ 614
その他の活動資金収支計	その他の活動資金収入計	610	860	921	594	3,182
	その他の活動資金支出計	420	558	466	430	261
	差引	190	302	455	164	2,921
	調整勘定等	0	1	1	△ 1	0
	その他の活動資金収支差額	189	303	456	163	2,921
	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 84	35	658	△ 120	2,307
	前年度繰越支払資金	2,324	2,240	2,275	2,933	2,813
	翌年度繰越支払資金	2,240	2,275	2,933	2,813	5,120

ウ) 財務比率の経年比較

科 目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動資金収支差額比率	13.0%	11.9%	8.7%	14.0%	0.8%

### ③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年推移

(単位：百万円)

		科目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,266	3,273	3,270	3,125	3,061
		手数料	72	70	59	57	49
		寄付金	11	12	10	11	21
		経常費等補助金	873	908	1,046	1,034	1,048
		付随事業収入	212	214	189	195	200
		雑収入	157	147	124	97	251
		教育活動収入計	4,591	4,623	4,699	4,519	4,629
		科目	決算	決算	決算	決算	決算
	事業活動支出の部	人件費	2,548	2,565	2,663	2,493	2,621
		教育研究経費	1,384	1,554	1,539	1,446	1,564
		管理経費	471	584	614	585	604
		徴収不能額等	5	7	6	6	2
		教育活動支出計	4,408	4,710	4,822	4,530	4,791
教育活動収支差額		183	△ 87	△ 123	△ 11	△ 162	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		受取利息・配当金	106	105	95	104	115
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	106	105	95	104	115	
	事業活動支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		借入金等利息	0	0	0	0	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	1
	教育活動外収支差額	106	105	95	104	114	
	経常収支差額	289	18	△ 28	93	△ 48	
特別収支	事業活動収入の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産売却差額	24	26	2	0	0
		その他の特別収入	12	311	53	27	74
	特別収入計	36	338	54	27	75	
	事業活動支出の部	科目	決算	決算	決算	決算	決算
		資産処分差額	2	4	185	3	5
		その他の特別支出	0	2	0	129	0
	特別支出計	2	7	185	132	5	
	特別収支差額	35	331	△ 131	△ 105	69	
	( 予 備 費 )						
基本金組入前当年度収支差額			324	349	△ 159	△ 12	21
基本金組入額合計			△ 523	△ 794	△ 3,026	△ 270	△ 78
当年度収支差額			△ 199	△ 446	△ 3,186	△ 282	△ 57
前年度繰越収支差額			△ 972	△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951
基本金取崩額			4	3	2	125	0
翌年度繰越収支差額			△ 1,168	△ 1,611	△ 4,794	△ 4,951	△ 5,008
(参考)							
事業活動収入計			4,733	5,065	4,848	4,650	4,818
事業活動支出計			4,410	4,717	5,008	4,662	4,797

イ) 財務比率の経年比較

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費比率	54.3%	54.2%	55.5%	53.9%	55.2%
教育研究経費比率	29.5%	32.9%	32.1%	31.3%	33.0%
管理経費比率	10.0%	12.4%	12.8%	12.6%	12.7%
事業活動収支差額比率	6.8%	6.9%	-3.3%	-0.3%	0.4%
学生生徒納付金比率	69.5%	69.2%	68.2%	67.6%	64.5%
寄付金比率	0.5%	0.9%	1.3%	0.8%	1.0%
補助金比率	18.4%	23.4%	21.6%	22.3%	22.7%
経常収支差額比率	6.2%	0.4%	-0.6%	2.0%	-1.0%